

秋の阿波

阿波の秋の訪れは稲穂の色の移り変わりとともにやってくる。

岡山では残暑厳しい九月の中旬、岡山の街をはずれるころ、道端の稲穂はまだ緑がかなり残っているが、北に向かうにしたがって黄色が深くなり、途中の加茂町あたりまでくると、黄金色とはいえないまでも実りの秋を思わせる景色となってくる。

胸をときめかせながら阿波に入ると、このあたりの平地、山あい、いたるところ実りの秋である。

八月初旬、オミナエシが一面に咲いていた畦道、今は彼岸もちかく、たわわに実った黄金色の稲の傍らに、ひっそりと白い曼珠沙華が顔を出している(30)。

山あいの田んぼには刈り入れもちかい稲穂が垂れ、黄金色に輝いている(31)。(33)。

空に積乱雲はもう見られない。

田植えの少しおくれた竹之下の稲も実りがちかく、空の青さも深まっている(34)。



30 実りの影にたたずむ白い秋



32 実りの秋



31 黄金色と空の青